

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091800080		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名(ユニット名)	グループホームという あかねユニット		
所在地	和歌山県岩出市中迫66-3		
自己評価作成日	令和5年12月20日	評価結果市町村受理日	令和6年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「誰もが利用したいと思えるグループホーム」を目指しています。家庭的な雰囲気を大切に、ご自宅と同じように気兼ねなく自由に過ごして頂けるよう努めています。接遇の基本・GH自己評価表を活用し、利用者一人ひとりを尊重し、その人らしさを大切にされた個別支援を行い、笑顔あふれる居心地の良い環境作りを取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の向かいに同法人が運営する保育所があり、窓越しに園児たちの姿を眺めることもでき、利用者は癒されている。コロナ禍で、事業所の外に出かける機会が少なくなったが、同法人が運営する別のグループホームと共同で文化祭を開催し、地域との交流の機会を増やす取り組みを行っている。文化祭では、作品の展示以外にも建物内を水族館風にアレンジし、楽しみの機会につなげている。ひな祭りには、女性利用者にお化粧を施し、気持ちの面でも変化を与えることができています。職員に対しては、毎月自己評価を行い、改善点を見つけ、日々の接遇等の自己研鑽に努めている。□

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について掲示を行い、常に職員が把握し実践出来るよう努めている。	毎朝理念を唱和し、周知に努めている。また、理念の他にグループホーム独自の年間目標を掲げて、利用者が何を思っているか職員アンケートを行い、職員で考えて利用者寄り添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため直接の交流は中止しているが、文化祭等の行事を開催し、地域の方が参加して頂ける取り組みをグループホーム合同で行っている。	自治会に入会しているが、地域自体が溝掃除やお祭り等の行事を行っていないため、交流の機会が少なくなっている。そのような中でも、地域との関わりが築けるよう、区長他地域の方々との連絡を密に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の状況や悩みごとについて情報交換を行い、認知症カフェを開催する等し、地域の方に貢献出来るよう努めている。また「つながり通信」を配布し認知症への理解を深めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地区役員、市役所職員、民生委員の参加を得て実施している。利用者の状況報告や行事、研修報告を行い、質問や意見を受け、取り入れるよう努めている。	コロナ禍以降、昨年2月から再開し、2カ月に1度開催している。区長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター、家族が参加し、会議の中で地域の介護教室の提案があり実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市町村担当者と事業所の実情や取り組み状況をていねいに説明し、質問や意見を受け協力関係を築くよう努めている。	市が開催する研修に参加し、関係性を継続し、わからない事があれば、市役所に出向き確認することで連携を図っている。また、4カ月毎に発行する「つながり」通信を関係機関に配布している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に全スタッフが身体拘束についてのオンライン研修を受け、身体拘束についての理解を深めている。玄関の施錠については、交通量の多い立地のため安全のため施錠しているが、利用者様の希望時はスタッフ付き添いにて外出出来るよう努めている。	日中は、防犯目的もあり玄関は施錠しているが、利用者が外出したいと希望した時は開錠し、出かけている。利用者に対する発言は、スピーチロックにならない様に十分気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に全スタッフが高齢者虐待防止に関するオンライン研修を受け、高齢者虐待、不適切ケアに対する理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用されている方はいない。オンライン研修にて制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居者・ご家族に入居に対する不安や、疑問を訪ね、時間を掛け説明し同意を得るようにしている。また、改定時には、説明し同意捺印を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族との信頼関係を築く事を大切にし、意見や不満が言いやすい関係作りをおこなっている。施設内に苦情受付、解消体制についての掲示を行い、利用者や家族が確認できる様にしている。	家族には、玄関先での面会時や、電話等で意見を聞くようにしている。家族が花の苗を持参してくれたので、利用者と一緒に事業所内で育てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等、日頃から意見を出しやすい雰囲気を作り、職員間での意見交換を行い反映させている。また、年2回の人事考課時にも確認を行なっている。	トイレのドアが半透明で見えやすいため、カーテンで隠すようにしたが、全面を覆っていなかったため、職員の意見で大きいカーテンに変更している。文化祭の開催も職員の提案で実施できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課等や職員がやりがいを持つよう努めている。また、職員個々がやりがいを持ち力を発揮できる職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修に参加できる機会を持ち、研修後はミーティング時に研修内容をフィードバックしている。オンライン研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム4事業所の合同研修を実施し、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握と、不安な事がご本人が置かれている状況を理解し、思いを受け止め安心してお話して頂ける様にユマニチュードの技法をスタッフ一人ひとりが意識して取り入れている頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な思いや置かれている状況を親身に聞き取りアセスメントシートも活用しながら入居後の暮らしについてご本人ご家族が安心できるよう一緒に考える関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや状況を把握し必要とされているサービスを見極め、サービス利用の様々な形を提案・相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に家事や製作活動を行うことを大切にしています。又その活動を通して生活の知恵や風習などを人生の先輩として教えて頂き、日常に活かせる様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡やオンライン面会で日頃の様子、体調の変化、ご本人の心情など報告、相談し、毎月写真付きの報告書を送付し、ご家族に安心して頂けるよう信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた美容院に行かれたりしていたが、感染症対策の一環として中止している。携帯や電話等で親戚・知人と話すなど交流は継続している	毎年、利用者自身で年賀状を作成するよう支援している。最近では、個々に携帯電話を所有しているため、馴染みの人との関係性が保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の日常の会話や様子から、ご利用者との関係性を把握し、仲良く話したい時、少し距離を取った方が良い時などその時々に応じて見極めて間に入りより良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の他事業所や他施設に転居時には、ご家族の思いや本人様の不安を軽減出来るように、介護情報交換もこまめに行っている。転居後にご家族から状態についての報告や相談を受けることもあり、関係性を立ちきらない様に心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の言葉や行動から思いや希望をくみ取れるよう心掛けている。また、契約時には、ご家族から生活歴の情報を得よう努めている。	センター方式(認知症を持つ人の状態を知るための情報収集ツール)で、生活リズムや利用者の状況を把握している。家族や入所前のサービス事業所にも、利用者の情報を聴き取り、日々の援助に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族訪問時に情報を得たり、センター方式を活用し家族の方に記入してもらい、これまでの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の思いに寄り添い、一人ひとりの過ごし方や生活リズム等の現状把握に努めている。又自己決定出来る様な声掛けを工夫し日常に活かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で課題点としてケアについて意見を出し合いご本人・ご家族の思いや要望を聞き介護計画を制作している。介護計画に沿った支援を職員全員で統一させている	6か月に1度の見直しに加え、体調変化等があれば、適宜介護計画を見直すようにしている。見直す1か月前は、特に多くの意見を記録するようにして、新たな介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の生活記録に記入している。連絡事項や気づきなどは、申し送りや気づきノートに記入している。、職員間で情報を共有し、ケース会議で見直し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の要望を汲み取りその時必要なサービスの提供が出来る様柔軟な支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの過去の経験や生活歴を知り、住み慣れた地域でその人らしく生活を送れるよう支援している。以前は近隣住民や友人の訪問もあったが、新型コロナウイルス感染症予防対策として現在、面会は家族のみとしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を尊重し、入所前からのかかりつけ医のままで対応しご利用者の体調や様子の変化を主治医に相談し指示を仰いでいます。又必要に応じて専門科へ紹介して頂き適切な医療を受ける事が出来ています	通院と往診の利用者が半数ずつである。通院の場合は家族が行うが、家族の対応が難しい場合は、職員が通院介助するようにしている。入所前のかかりつけ医や、協力医のどちらかの往診が選べる。歯科衛生士による口腔ケアも受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師がいない為、個々の主治医と連携を取り、日頃の状況を把握し、気付いた事は電話相談したり、受診時に報告したりし、適切な指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日々の状況を病院関係者と情報交換している。また、入院中は、ご家族・病院看護師に定期的に連絡し、状態を伺い早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの対応については、入居時に説明させて頂いています。日常的に医療が必要になった時には、主治医とご家族と話し合いながら、症状に応じて対応し、グループホームでの出来る限りの支援をしています。	事業所としては看取りは行ってない。家族の希望もあり、少しでも長い期間事業所に居られるよう支援をしているが、入浴困難や病状が悪化すれば、入院や特養への入所の選択肢があることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは施設内研修で非常時の対応について学ぶことにしている。また、消防が実施している応急手当研修・AED使用方法を学びフィードバックする事でスタッフ全員で知識、技術を共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染症予防対策として、地域消防との避難訓練が中止となり自施設の職員とご利用者で、避難訓練を行い、避難経路の確認・消火器の使用方法を確認しました。また災害時の対策についても話し合い、非常用品の備蓄も行っていきます。	災害訓練は、火災をイメージして年2回実施している。利用者・職員分を合わせて、3日分の食料が備蓄されている。災害備品も備えられている。災害時に避難した場合は、携帯電話で居場所が分かる工夫している。	火災や地震・台風等の災害を想定した訓練に加え、ライフラインが滞った時を想定した訓練を行い、災害時でも事業所運営が継続できるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が自己評価の取り組みをし、面談を通して個別に具体的な言葉かけや対応について話し合いを行い、利用者の尊重とプライバシー確保のための支援、言葉かけを行っている。	毎月実施している自己評価表を参考に、接遇改善に努めている。職員の意識も変化してきている。利用者は「さん」付けを基本にしているが、利用者や家族の意向があれば、下の名前で呼ぶような対応も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ全員が自己評価の取り組みを行い、面談を通して具体的な言葉かけや対応について話し合いを行い、おやつや飲み物、着替えや、やりたい事等の希望の表出や、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ全員が自己評価の取り組みを行い、面談を通して具体的な言葉かけや対応について話し合いを行い、生活のペースを大切にしつつ一人ひとりの希望にそって生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で決めて着られています。ご自分で決められない方には選択できるように目の前にお出し選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策として料理の盛り付けは出来ませんが、食器洗いやおぼん拭きを行なって頂いています。食事も行事や誕生日の際に好物をお伺いして提供したり、魚や苦手な人には代替え品を提供しています	昼食と夕食のおかずは3年前より外注にしているが、炊飯とお味噌汁は事業所で準備している。おはぎ等、自身の分だけは利用者自身で作るような援助も行っている。ノンアルコールを飲む利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量も記録し必要時には主治医に相談も行なっています。状態に応じて刻み食やほぐし・お粥等提供し魚が苦手な方に代替え品を提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施しています。義歯を外して口腔洗浄剤につけています。ご自分で困難な方には、職員が介助し口腔内の清潔を保っています。必要に応じて歯科医を受診し口腔指導を受けています。定期的に歯科衛生士の口腔ケアを受けている方が2名居ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、定期的にトイレ誘導の声掛けを行い、トイレでの排泄を心掛け、パット使用量を減らす様努めています。	眠りセンサーで排泄時期が早期に把握でき、余裕をもって排泄介助を行っている。布の下着を着用する利用者もいる。便秘の場合は、水分摂取量を調整したり、乳製品の摂取を促し、安易に薬に頼らないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト・ヤクルト・牛乳等、個々に応じた乳製品を摂取して頂いています。バナナ・みかん等の果物も提供し、自然なお通じが出るように対応しています。必要時には緩下剤を使用し便秘改善に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声掛けを行い、本人様の希望や体調により入浴して頂いています。又夕方入浴も行っており、お湯の温度もその方の好みに調節し対応しています。やむを得ず入浴できない時は、清拭と足浴にて保清に努めています。	毎日入浴できるよう準備を行っている。実際は、3日に1度程度の入浴が多く、入浴拒否する利用者には、根気よく声かけを工夫し入浴につなげている。入浴剤を使用したり、ゆず湯等で入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自由に居室への行き来をされ、居室にて休まれたりテレビを見て過ごされたりしています。夜も居室で好きな番組を見られたり就寝時間もご自分で決められています。又良く眠れるように日中、体操やレク・日課活動の支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時のお薬情報にて通院記録を制作している。服薬内容を記入し、職員間で情報を共有している。変化があれば都度、申し送りノートに記入している。服薬は服薬管理表にて対応し、症状の変化に合わせてご家族、主治医に相談対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力や得意な事を活かし、脳トレやパズルを提供したり、洗濯物畳みや干し・食器洗いなど皆で協力しながら役割を持ち楽しんで行って頂ける様に支援しています。個人で新聞をとられている方もあり、毎朝の新聞鳥が日課となっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、公の場への外出は出来ませんが、別の事業所内で花見や文化祭など季節に応じた催し物を開催し、外出し観覧して頂いています。散歩や外気浴などできる範囲での支援に努めています。	新聞を取りに行ったり、花の水やりや日光浴、外気浴、花見等をきっかけに外出支援に繋げている。昨夏は、グループホームの庭で花火を行い楽しんでもらっている。近所のお寺へのドライブも、利用者の希望に合わせて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で日用品や嗜好品の買い物を職員が行なっている。現金は預からず立て替えとし、月のご利用代金と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持ち自由にご家族と話したり、県外に住んでいるご家族に近況の手紙を書いたり、返事を頂いたり自宅に居た時と変わらず交流している。ご利用者の希望により職員がご家族に電話しお話し出来るように援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースではご利用者様に何度か室温の確認を行い、快適な温度を保てるように調節しています。日差しの強い日には遮光カーテンを使用し明るさの調整も行っていきます。、季節を感じて頂く為に季節の花を飾り壁画・毎月のカレンダー作成も行っていきます	利用者の状況に合わせて、席替えやソファの位置を変更している。フロアは広く死角がないため、職員の注意が行き渡る。壁には季節の飾り物があり、遮光は適度に保たれており、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ席を利用し、気の合った者同士やいろいろな方と交流出来るように配慮している。各自室でテレビを観たり、ベッドで横になったり思い思い過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や置物、寝具など好みの物を持ち込んで頂き、ご本人の居心地良く安心できる部屋にしている。	利用者本人の居室がよくわかるように、利用者自身で作成した作品をドアに飾るようにしている。クローゼットと洗面台は、居室に備え付けられている。布団や枕、仏壇他家庭で使用していた物を自由に持ち込め、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差をなくし、手すりを配置し安全に過ごして頂ける様にしている。トイレ・浴室・居室には、絵つきプレートが表示されている。又各居室にはその方の状態に応じ、洗面所前にイスを置いたり、ポータブルトイレを設置し自立した生活が送れるように工夫している		